

沖田川水系河川整備基本方針

平成 27 年 4 月

宮 崎 県

沖田川水系河川整備基本方針

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針.....	1
(1) 流域及び河川の概要.....	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針.....	4
1) 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項.....	4
2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項.....	5
3) 河川環境の整備と保全に関する事項.....	5
4) 河川の維持管理に関する事項.....	7
2. 河川の整備の基本となるべき事項.....	8
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項.....	8
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項.....	8
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項.....	9
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項.....	9
(参考図) 沖田川水系図.....	10

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域及び河川の概要

【流域の概要】

沖田川は、その源を宮崎県延岡市上三輪町の烏帽子岳に発し、山地部を流下した後、延岡市小野町付近で沖積平野に至り、沖積平野をさらに東方に流下した後、河口部付近で石田川、井替川、浜川等の支川を合わせ、延岡市塩浜町において日向灘に注ぐ幹川流路延長は 13.3km、流域面積は 40.3km² の二級河川です。

【人口・産業・土地利用】

沖田川の流域内人口は、平成 22 年の統計で約 33,000 人です。沖田川流域は延岡市の中心市街地に隣接しています。延岡市は、戦前より県内屈指の工業都市として栄えてきました。流域は、国道 10 号や JR 日豊本線などの主要交通網の中にあり、地域の社会経済の基盤をなしています。

延岡市は、第 5 次延岡市長期総合計画で「市民力・地域力・都市力が躍動するのべおか」を目指し、東九州の拠点都市づくりを進めています。流域には、東九州自動車道の延岡南 IC が位置しており、今後の更なる発展が期待される地域です。

【流域の地形・地質】

沖田川の上流域は標高 200～300m の山地で構成され、中流域から河口にかけて低地が形成されています。下流部では蛇行して流下し、河口部では砂州が発達し、砂嘴地形が形成されています。

流域の地質は、上～中流域にかけては、四万十帯古第三紀の砂岩・頁岩の互層で形成され、下流域は完新世の礫・砂・シルト・粘土で覆われています。

【流域の気候】

流域の気候は、南海型気候区に属し温暖多雨な気候帯にあります。延岡観測所の観測では、年間平均気温は約 16.9℃、年間降水量は約 2,400mm を記録し、降雨の大部分は台風期及び梅雨期に集中しています。

【自然環境】

沖田川の上流から中流部は、河床勾配 1/90～1/1,000、川幅 10～50m 程度で、標高約 300m の山地から丘陵地や谷あいの平地部を経て延岡市の近郊市街地へと流れています。丘陵地の河川沿いにはシイ・カシ萌芽林やスギ・ヒノキ・サワラ植林、コナラ群落等が分布し、平地部では水田や住宅地が立地しています。河川内にはツルヨシ・オギ群落等が分布し、堤防沿いにはチガヤ・ススキ群落が分布しています。水域には、オイカワやドジョウ（環境省レッドリスト 情報不足、宮崎県レッドリスト 準絶滅危惧）、オオヨシノボリ等の魚類が生息しています。周辺には、アオサギやカワラヒワ等の鳥類が生息しています。

下流部は、河床勾配 1/1,500、川幅 50～150m 程度で、延岡市の市街地を流れ日向灘に注いでいます。河川内にはヨシ群落やシオクグ群落、ケカモノハシ群落やハマゴウ群落等が分布し、抽水植物から塩沼植物、砂丘植物へと汽水域縦断方向の植生変化が見られます。両岸の堤防沿いには連続してまとまったハマボウ（国立・国定公園指定、宮崎県レッドリスト 準絶滅危惧）群落形成され、ハマナツメ（環境省及び宮崎県レッドリスト 準絶滅危惧）等の塩沼植物も生育しています。さらに、特定外来生物のオオキンケイギクの侵入も確認されています。水域では、クロダイやキチヌ、トビハゼ（環境省レッドリスト 準絶滅危惧、宮崎県レッドリスト 絶滅危惧Ⅱ類）等の魚類、ハザクラ（環境省レッドリスト 準絶滅危惧、宮崎県レッドリスト 絶滅危惧Ⅱ類）やガタヅキ（コハギガイ）（環境省レッドリスト 情報不足）等の貝類、アリアケモドキ（宮崎県レッドリスト 絶滅危惧ⅠA類）やスナガニ（宮崎県レッドリスト 準絶滅危惧）等の甲殻類が生息しています。陸域では、アオサギやミサゴ（環境省及び宮崎県レッドリスト 準絶滅危惧）等の鳥類が生息しており、さらにカイツブリ等の水鳥も見られます。冬季にはヒドリガモやオナガガモ等のカモ類、ハマシギ（環境省レッドリスト 準絶滅危惧）、ミユビシギ等のシギ類が越冬地として干潟や水面を利用しています。

沖田川の河口域では干潟やヨシ原、草地等のエコトーンが広い範囲に形成されており、コギシギシ（環境省レッドリスト 絶滅危惧Ⅱ類、宮崎県レッドリスト 準絶滅危惧）やタガラシ（宮崎県レッドリスト 準絶滅危惧）、ハマサジ（環境省及び宮崎県レッドリスト 準絶滅危惧）等豊富な植物相を育んでいます。また、堤防沿いのハマボウ群落は市民ボランティアによる保全・再生活動のもとで形成されたものであり地域のシンボリック存在となっています。

【過去の主要洪水と治水事業】

沖田川水系では、昭和 38 年 9 月の大出水を契機として、支川井替川では昭和 40 年度より小規模河川改修事業を開始し、平成 6 年度に完了しました。支川浜川では昭和 48 年度より中小河川改修事業を開始し、昭和 52 年度に完了しました。

沖田川本川は、昭和 57 年度より中小河川改修事業として、井替川合流前での計画高水流量を $220\text{m}^3/\text{sec}$ と定め、支川石田川の改修も含め、河口から沖田橋付近間の築堤、掘削等を実施してきました。平成 10 年度には、沖田ダムの本体工事に着手し平成 14 年度に完成しました。沖田川では、事業完了の平成 15 年度以降、河川からの氾濫による家屋浸水被害は発生していません。

【河川水の利用】

沖田川の河川水は、古くから農業用水として利用され、流域の人々の生活を支えています。また、沖田ダムにより、渇水時の既得用水の確保と河川水が枯渇しないように補給を行い、河川環境の保全が図られています。

【水質】

沖田川の水質は、笹目橋^{ささめ}において平成 22 年度、第二沖田橋において平成 22 年度及び平成 23 年度に BOD75%値は、環境基準値（B 類型）を上回っています。しかし、その他の年度では $1\sim 3\text{mg/L}$ 程度で推移し、環境基準値（B 類型）を満足しています。

【河川の利用】

上流の沖田ダムでは、延長約 10km の周遊道路が整備され、トップアスリート達のトレーニングコースや市民の憩いの場として利用されています。また、沖田ダムの青谷城公園には、河川プールが整備されています。

下流では、沖田川の堤防での散策やジョギングを楽しむ人も多く、地元の小学生を対象にして、地域文化と自然の野の花を調査し、地域を知り自然環境を保全する活動が行われています。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

沖田川水系では、洪水氾濫等による災害から貴重な生命、財産を守り、地域住民が安心して暮らせるよう河川等の整備を図ります。また、沖田川水系の良好な河川環境を保全、継承するとともに、流域の風土、歴史、文化を踏まえ、地域の個性や活力を実感できる川づくりを目指すため、関係機関や住民との連携を強化し、河川の多様性を意識しつつ治水・利水・環境に関わる施策を総合的に展開します。このような考えのもとに、河川整備の現状、森林等の流域の状況、地形の状況、砂防や治山の実施状況、水害の発生状況、河川利用の現状（水産資源の保護及び漁業を含む）、河口付近の河岸の状況、河畔林の影響、河川環境の保全等を考慮し、また、関連地域の社会経済情勢と調和を図りながら、環境基本計画等との整合を図り、かつ、土地改良事業等の関連事業及び既存の水利施設等の機能維持に十分配慮し、水源から河口まで一貫した計画のもとに、整備を進めるに当たっての目標を明確にして、河川の総合的な保全と利用を図ります。

河川の維持管理に関しては、災害発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する多様な機能を十分に発揮できるよう適切に行います。

1) 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

災害の発生の防止又は軽減に関しては、河道や沿川の状況等を踏まえ、それぞれの地域特性にあった治水対策を講じることにより、水系全体としてバランスよく治水安全度の向上を図ります。そのため、流域の豊かな自然環境や地域の風土・歴史等に配慮しながら、現在の河道の流下能力を維持するために適切に管理し、計画規模の洪水を安全に流下させることを目標とします。

地震・津波対策等を図るため、津波遡上区間における樋門の自動閉鎖化や堤防の嵩上げ、液状化対策などのうち効果の高いものについて実施するとともに、高潮による被害の防除を図るための対策を実施します。

内水被害の著しい地域においては、関係機関と連携・調整を図りつつ、必要に応じて内水被害の軽減対策を実施します。

堤防、堰、排水機場、樋門等の河川管理施設の機能を確保するため、巡視、点検を実施し、河川管理施設及び河道の状態を把握します。維持修繕、機能改善等を計画的に行い、良好な状態を保持するとともに、樋門の自動閉鎖化等、施設管理の高度化、効率化を図ります。

河道内の樹木については、樹木による阻害が洪水位に与える影響を十分把握し、河川環境の保全に配慮しつつ、洪水の安全な流下を図るため、計画的な伐開等の適正な管理を実施します。

計画規模を上回る洪水に対しては、被害を極力抑えるため、河川水位・雨量情報の提供、防災訓練の実施等、関係機関や住民と連携して様々な対策を推進します。

また、高潮や今後発生が危惧されている南海トラフを震源とした大規模地震・津波による堤防等河川管理施設の安全性を照査したうえで、必要な対策を実施するとともに、被害を軽減・防止するため、関係機関との連携のもと、ハード・ソフトが一体となった総合的な災害対策に取り組みます。

本川及び支川の整備にあたっては、水系全体の治水安全度のバランスを考慮し、水系一貫した河川整備を行います。

2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

河川水の利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、今後とも、関係機関との連携を進め、水資源の合理的かつ有効な利用の促進に努めるとともに、現在の水量・水質をはじめとする良好な水環境の維持・保全に努めます。さらに、渇水時における関係機関等の調整が速やかに図られるよう、必要な情報の提供に努めます。

3) 河川環境の整備と保全に関する事項

河川環境の整備と保全に関しては、これまでの地域の人々と沖田川との関わりを考慮しつつ、沖田川の良好な河川景観の維持・形成を図るとともに、重要種を含む多様な動植物が生息・生育・繁殖できる豊かな自然環境の保全・創出を図り、次世代に引き継ぐように努めます。

河川工事等により、河川環境に影響を与える場合には、代償措置等により、できる限り影響の回避・低減に努め、良好な河川環境の維持を図ります。また、劣化もしくは失われた河川環境の状況に応じて、河川工事や自然再生により、かつての良好な河川環境の再生に努めます。実施にあつ

ては、地域住民や関係機関と連携しながら地域づくりにも資する川づくりを推進します。

動植物が生息・生育・繁殖する環境については、重要種を含む多様な生物の生活史を支える環境を確保できるよう良好な自然環境の保全・創出に努めます。外来種については、関係機関と連携して移入回避や必要に応じて駆除等にも努めます。また、魚類の遡上や降下などに支障をきたさないように、連続性が確保されるよう配慮します。

沖田川下流部では、抽水植物から塩沼植物、砂丘植物へと変化する環境や干潟、ヨシ原、草地等のエコトーンが広い範囲に形成され、コギシギシやタガラシ、ハマサジ等豊富な植物相の生育基盤が形成されています。陸域では、アオサギやミサゴ、カイツブリ等の鳥類の生育・生息・繁殖の場となっています。このような多様な生物を育む環境が形成されており、今後も現状を保全し良好な河川空間を維持していくことが重要となっています。

良好な景観の維持形成については、河畔林や瀬・淵、砂礫川原等からなる自然景観の維持・形成に努めるとともに、沿川の土地利用と調和した良好な水辺空間の維持・形成に努めます。

人と河川の豊かなふれあいの確保については、流域の歴史・文化や良好な河川環境を生かして、水面利用に配慮するとともに、レクリエーション、自然との触れ合い、環境学習ができる場等を整備・保全するよう努めます。

また、地域住民に対して積極的に河川の情報を提供し、地域住民や関係機関と一体となった川づくりが図られるよう努めます。

水質については、河川の利用状況、沿川地域等の水利用状況、現状の河川環境を考慮し、下水道等の関連事業や関係機関との連携・調整、地域住民との連携を図りながら、その維持・改善に努めます。

河川敷地の占用及び許可工作物の設置、管理については、多様な動植物が生息・生育・繁殖できる環境の保全、良好な景観の維持について十分配慮するとともに、治水・利水・環境との調和を図りつつ、河川敷地の多様な利用が適正に行われるように努めます。また、環境に関する情報収集等に努め、河川整備や維持管理に反映させます。

地域の魅力と活力を引き出す積極的な河川管理を推進します。そのため、沖田川を流域全体で大切に守り育て、また活用していく共有財産であるという意識の熟成と共有化を図るとともに、地域住民が河川管理に積極的に参画する取り組みを関係機関や地域住民と連携し推進します。さらに、住民参加による河川清掃、河川愛護活動等を推進するとともに、河川を中心に活動する市民団体等と協力連携し、防災学習、河川の利用に関する安全教育、環境教育等の充実を図ります。

4) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理は、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の保全の観点から行います。

河川本来の機能及び整備によって向上した機能を維持し、良好な河川環境を将来へ引き継いでいくためには、地域住民の理解と協力が必要不可欠であります。

このため、河川に関する情報を流域住民に幅広く提供することによって河川愛護の意識を高揚するとともに、関係自治体や地域住民と連携して、河川の巡視及び点検を実施し、異常が確認された場合は、老朽化等の原因を把握して必要に応じて補修工事を実施します。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

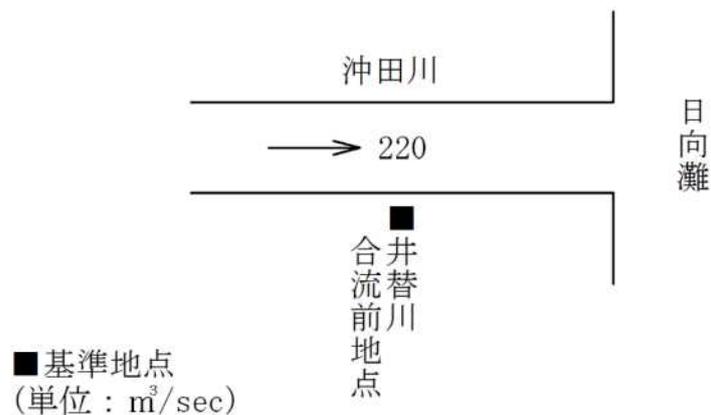
基本高水は、既往洪水を考慮してそのピーク流量を基準地点である井替川合流前地点において $400\text{m}^3/\text{sec}$ とします。このうち洪水調節施設により、 $180\text{m}^3/\text{sec}$ を調節して、河道への配分流量を $220\text{m}^3/\text{sec}$ とします。

基本高水ピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
沖田川	井替川合流前地点	$400\text{m}^3/\text{sec}$	$180\text{m}^3/\text{sec}$	$220\text{m}^3/\text{sec}$

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

計画高水流量は、基準地点である井替川合流前地点において $220\text{m}^3/\text{sec}$ とします。



沖田川計画高水流量図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる概ねの川幅は、次表のとおりとします。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T.P.(m)	川幅 (m)
沖田川	井替川 合流前地点	1.7	2.58	55
	河 口	0.0	※5.6	406

T.P.(m) : 東京湾中等潮位

※ : 計画津波水位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

沖田川における既得水利権としては、麦野橋地点から下流において農業用水としてかんがい期に約 $0.14\text{m}^3/\text{sec}$ が取水されていると推定されています。

麦野地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量については、河川の適正な水利用、動植物の生息・生育・繁殖環境、流水の清潔の保持、景観等を考慮のうえ、かんがい期最大 $0.29\text{m}^3/\text{sec}$ 、非かんがい期 $0.15\text{m}^3/\text{sec}$ とし、流水の適正な管理、円滑な水利利用、河川環境の保全等に資するものとしします。

なお、流水の正常な機能を維持するための必要な流量には、水利流量が含まれているため、水利使用等の変更に伴い、当該流量は増減します。

(参考図) 沖田川水系図

